

東京女子医科大学学会

2024 年評議員会および第 90 回総会報告

2024 年 9 月 4 日（水）の評議員会の結果に基づき、総会を 9 月 17 日（火）～10 月 3 日（木）を WEB 表決期間、10 月 4 日（金）を集計・議決日とする WEB 開催とした結果、すべての議事について承認された。

【議題 1】庶務報告

2023 年 1～12 月の庶務報告として以下のとおり報告する。

1. 会員（2024 年 5 月末時点）：
正会員は 715 名で、昨年報告した 748 名より 33 名減少。
2. 和文誌『東京女子医科大学雑誌』（2022 年 1～12 月）：
電子版は 93 巻 1～6 号の計 6 回、冊子版は 93 巻 1～6 号と英文誌 Volume 7 を 1 冊にまとめた合本号を 1 回発行した。投稿から、初回採否結果通知までは平均 28.8 日、最終採否結果通知までは 44.8 日だった。
3. 英文誌『Tokyo Women's Medical University Journal』（2023 年 1～12 月）：
Volume 7 は 15 篇を掲載した。Submission から、first decision までは平均 37.3 日、final decision までは平均 55.7 日だった。
4. 集会（2023 年 1～12 月）：
例会 2 回、総会 1 回、評議員会 1 回を開催した。
第 367 回例会（2023 年 2 月）は、第 1 部として研究奨励賞受賞者研究発表を 2 月 25 日～3 月 3 日にオンデマンド配信、第 2 部として研究奨励賞授与式を 2 月 25 日午前に関係者のみにて執り行い、第 3 部として研修医症例報告 15 題を 2 月 25 日午後 Zoom ミーティングにより実施した。
第 368 回例会（2023 年 5 月 22 日午前 9 時～29 日午前 9 時）は、令和 5 年度吉岡彌生研究奨励賞授与式は関係者のみにて執り行い、令和 4 年度吉岡彌生研究奨励賞受賞者研究発表と記念講演はオンデマンド配信にて開催した。記念講演は、「吉岡彌生先生の精神から学ぶ」と題して 1971（昭和 46）年本学卒業生で本学常務理事の扇内美恵先生より、また 1989（平成 1）年卒業生で元参議院議員の薬師寺道代先生より「政治の裏話～女性の視点から政治を考える～」と題してご講演いただいた。
第 89 回総会（2023 年 9 月 30 日）は、総会は WEB 決議、公開シンポジウムは現地と Zoom ウェビナー配信のハイブリッドとして行った。公開シンポジウムは「AI が支えるホスピタルの未来と社会実装」をテーマに 5 名の講師よりお話しいただいた。
5. 記念楯（2022 年 1～12 月）：
学会主催 2 個、共催 1 個、その他（退任幹事）2 個の利用だった。来校や講演記念にご活用ください。
6. 新名誉会員：
2024 年 8 月時点で名誉教授の称号を贈られた有賀淳先生に名誉会員の称号を贈る。
7. 幹事・監事改選（2024 年 10 月 1 日～2026 年 9 月 30 日）：
副会長：2024 年 3 月に退任された佐藤麻子教授の後任として清水優子教授（医療安全科）が就任。
庶務担当幹事：2024 年 3 月に退任された小森万希子教授の後任として本多祥子准教授（解剖学（神経分子形態学））が就任。集会と編集を兼任。
編集担当幹事：2024 年 3 月末に 3 名の先生が退任され、4 月 1 日付で新たに、小高光晴臨床教授（足立医療センター集中治療科）、山村幸江准教授（耳鼻咽喉科学）、吉澤浩志准教授（八千代医療センター脳神経内科）が就任。
集会担当副幹事長：秋澤叔香准教授（看護学部臨床医学系外科学）が就任。
集会担当幹事：2024 年 3 月末に 3 名の先生が退任され、4 月 1 日付で新たに、石津綾子教授（解剖学（顕微解剖学・形態形成学））が就任。

在任中の幹事の先生方には再任をお願いした。

8. 新評議員：

2023年8月～2024年7月に准教授以上に就任し承諾された20名を新たに評議員とする。

医学部

関口 治樹 准教授（睡眠科）

南 雄一郎 准教授（循環器内科学分野）

平井 敏仁 准教授（泌尿器科学）

辻野 賢治 准教授（統合教育学修センター 基礎科学（物理学））

河村 寿子 准教授（生理学（神経生理学分野））

片岡 利之 准教授（八千代医療センター 歯科口腔外科）

岡野 龍介 准教授（麻酔科学）＊

宗像裕太郎 准教授（整形外科科学）

瀬尾 幸子 教授・基幹分野長（血液内科学分野）＊

中井 陽介 教授・基幹分野長（消化器内科学分野）＊

前田 佳子 准教授（足立医療センター 骨盤底機能再建診療部）＊

矢野紘一郎 准教授（整形外科科学）

金子恒一郎 准教授（放射線医学（画像診断学・核医学分野））

荻安 俊哉 准教授（足立医療センター 放射線科）

森 周介 教授・基幹分野長（救急医学分野）＊

藤堂 健一 教授・基幹分野長（脳神経内科学分野）＊

近藤 俊輔 教授（化学療法・緩和ケア科）＊

嵐 弘之 教授（足立医療センター 心臓血管診療部）

横溝 智雅 准教授（解剖学（顕微解剖学・形態形成学分野））

看護学部

川原 美紀 准教授（成人看護学）＊ [就任順 ＊新任]

【議題2】会計報告：2023年度決算および監査報告

2023年度収支決算として以下のとおり報告する。

2023年度収支決算：収入

会費収入は、予算額3,500,000円に対し決算額3,480,500円で、19,500円の減少。雑誌刊行収入は、英文誌は掲載に至らなかった論文と投稿料・掲載料の未入金により、和文誌は投稿論文の掲載篇数減少により、予算額1,401,000円に対し決算額884,210円で、516,790円の減少。盾売却収入は予算額20,000円のところ決算額20,000円、雑収入は予算額917円のところ決算額317円だった。

2023年度収支決算：支出

集会費は、WEB開催と記念講演料辞退により、予算額1,075,000円に対し決算額656,215円で、予算差418,785円の減少。出版費は、予定していた英文誌向上への取り組みが次年度に持ち越しとなったため、予算額4,853,000円に対し決算額2,852,644円で、予算差2,000,356円の減少。経常費は、備品費、修繕費を要することなく、予算額405,000円に対し決算額166,301円で、予算差238,699円の減少。

2023年度収支決算：結果

収支差額1,411,083円の支出超過予算のところ、709,867円の黒字会計だった。前期繰越金36,178,083円を加えた36,887,950円を次年度繰越金として計上した。

以上の報告は、石黒直子・降矢芳子両監事の監査により、問題ないことが承認されている。

2023年度 東京女子医科大学学会 会計報告				
2023年4月1日～2024年3月31日				
(収入) <単位:円>				
科目	予算額	決算額	差額 (決算-予算)	備考
1. 会費収入	3,500,000	3,480,500	▲ 19,500	
2. 雑誌刊行収入	1,401,000	884,210	▲ 516,790	
3. 盾売却収入	20,000	20,000	0	
4. 雑収入	917	317	▲ 600	
収入合計	4,921,917	4,385,027	▲ 536,890	
(支出) <単位:円>				
科目	予算額	決算額	差額 (決算-予算)	備考
1. 集会費	1,075,000	656,215	▲ 418,785	
2. 出版費	4,853,000	2,852,644	▲ 2,000,356	
3. 経常費	405,000	166,301	▲ 238,699	
支出合計	6,333,000	3,675,160	▲ 2,657,840	
本年度収支差額	▲ 1,411,083	709,867	2,120,950	
前年度繰越金	36,178,083	36,178,083	0	
次年度繰越金	34,767,000	36,887,950	2,120,950	

上記のとおり、2023年度の会計報告をいたします。

2024年6月13日 野原 理子 (会計担当幹事)

監査の結果、上記の会計報告につき問題のないことを報告いたします。

2024年7月9日 石黒直子 (監事)

2024年7月20日 降矢 芳子 (監事)

【議題3】 会計報告：2024年度予算案

2024年度収支予算案を以下のとおり報告する。

2024年度収支予算：収入

会費収入は、会員が減少傾向ではあるものの2023予算額と同じ3,500,000円とした。雑誌刊行収入は、2023予算額1,401,000円に対し、81,000円減額の1,320,000円とした。盾売却収入は、2023年度末に販売した7個分140,000円を計上することを加味し、2023予算額20,000円から140,000円増額の160,000円とした。雑収入は、調整科目により1,000円を計上。

2024年度収支予算：支出

集会費は、在庫切れ盾の追加発注が見込まれるものの、WEB開催の継続、記念講演料辞退〔杉崎先生、小森先生〕を加味し、2023予算額1,075,000円に対して222,000円減額した853,000円とした。出版費は、昨年度着手できなかった英文誌向上への取り組み費用を持ち越し、2023予算額4,853,000円から120,000円の減額に留め、4,733,000円を2024予算額とした。経常費は、HP関連費を100,000円減額、2025年秋のWindows10サポート終了によるWindows11対応PC買い替え費として備品費を200,000円増額したほかは据え置き、2023予算額405,000円に対して505,000円を計上した。

2024年度収支予算：結果

本年度収入合計4,981,000円に対し支出合計6,091,000円で、1,110,000円の支出超過予算だが、前年度繰越金36,887,950円を加えた35,777,950円の繰越金を計上する見込みである。

2024年度 東京女子医科大学学会 予算案				
2024年4月1日～2025年3月31日				
(収入) <単位:円>				
科目	前年度予算額	本年度予算額	増減 (本年-前年)	備考
1. 会費収入	3,500,000	3,500,000	0	
2. 雑誌刊行収入	1,401,000	1,320,000	▲ 81,000	
3. 盾売却収入	20,000	160,000	140,000	
4. 雑収入	917	1,000	83	
収入合計	4,921,917	4,981,000	59,083	
(支出) <単位:円>				
科目	前年度予算額	本年度予算額	増減 (本年-前年)	備考
1. 集会費	1,075,000	853,000	▲ 222,000	
2. 出版費	4,853,000	4,733,000	▲ 120,000	
3. 経常費	405,000	505,000	100,000	
支出合計	6,333,000	6,091,000	▲ 242,000	
本年度収支差額	▲ 1,411,083	▲ 1,110,000	301,083	
前年度繰越金	36,178,083	36,887,950	709,867	
次年度繰越金	34,767,000	35,777,950	1,010,950	

【その他】集会担当幹事会からの報告

- 第90回総会〔2024年9月28日（土）13：30～15：30〕【資料A】：
公開シンポジウムは、統合教育学修センター教授の西井明子先生企画による「女子大教育の将来」をテーマに4名の講師を招いて開催。申込期限9月25日（水）
- 第371回例会〔2025年2月22日（土）午後〕【資料B】：
10月31日（木）を期日に、一般演題と研修医症例報告会への演題を募集中。開催形式は、社会情勢を考慮して決定する。事情ご理解の上、奮ってご応募いただきたい。
- 第41回吉岡彌生記念講演会〔2025年5月22日（木）13：30～16：00〕
講師は、現在、検討中。

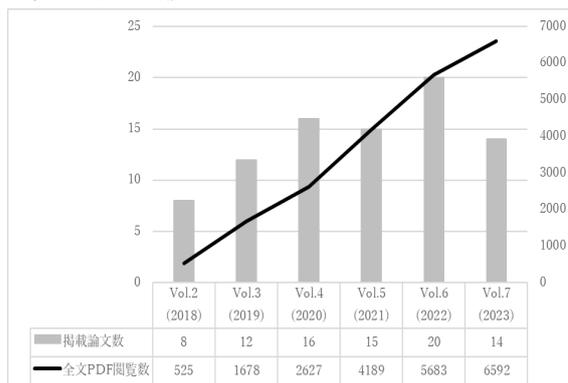
【その他】編集担当幹事会からの報告

- 和文誌：第95巻掲載シリーズ
例年、和文誌に掲載しているシリーズは、「COVID-19再考：私たちは何を学んだのか？」をテーマに10名にご執筆いただく。

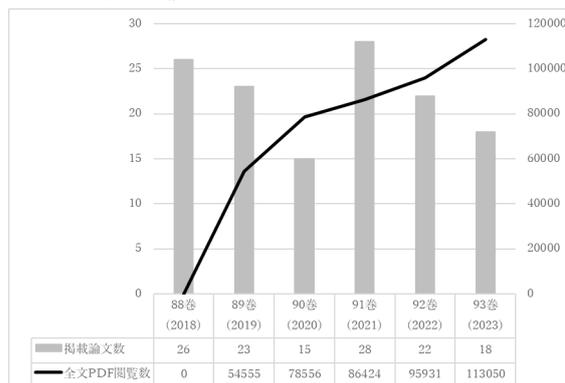
執筆者	ご所属	内容
野原理子教授	公衆衛生学	公衆衛生政策
塚原富士子特任教授	研究推進センター／薬理学	創薬・治療薬の現状
丹呉恵理看護師長	総合感染症・感染制御部	感染症対策の取り組み再考①看護部視点
塩川満薬剤部長	薬剤部	感染症対策の取り組み再考②薬剤部視点
三浦ひとみ 臨床検査技師長	中央検査部	感染症対策の取り組み再考③中央検査部視点
多賀谷悦子教授	呼吸器内科	COVID肺炎に対する取り組み
高梨潤一教授	八千代医療センター小児科	小児医療：COVID-19関連脳症を中心に
水主川純教授	母子総合医療センター	周産期医療
大坪天平教授	足立医療センター精神科	メンタルヘルスケア
西井明子教授	統合教育学修センター	医学部（大学）教育の取り組み

- 和文誌：総会特集
第90回総会の公開シンポジウム「女子大教育の将来」の講演内容を掲載する。
- 和文誌：活性化への試み
数年中止していた最終講義論文の掲載を復活し、和文誌の掲載論文数増加を図っている。
- 英文誌：
2024年は、英文誌査読の質改善のために Instructions to Authors に追加した Acceptance Criteria の改訂等を行い、さらなる英文誌の改善に努める。
- 英文誌／和文誌の掲載論文数と全文PDF閲覧数の推移：
英文誌の掲載論文数は2022年にピークに達し、2023年に減少したことを危惧している。投稿への働きかけに努める。和文誌は症例報告が減少している現状に医学部生や研修医からの投稿を奨励している。

〔英文誌の推移〕



〔和文誌の推移〕



【ご質問と回答】

Q1. これまでの予算書を拝見すると、常に100～200万円のマイナス予算になっていますが、繰越金がそれなりの額があるので問題ないという判断でしょうか？

A1. ご質問ありがとうございます。

学会の運営活動を活性化するため、繰越金を有意義に活用することを検討しております。そのためマイナス予算となっております点をご理解いただけますと幸いです。

【ご意見とお返事】

新評議員などについて、岩本絹子氏やそれに影響された幹部の下で不適切な人事があったことが懸念されます。今回、女子医大の運営が不適切であったと問題になっている期間になされた人事について、自浄能力が欠如していると思われる現女子医大では自力で判断できるか不明であり、第三者委員を入れた公平な視点で見直すべきと考えます。その説明まで至っていない現在、承認しかねると判断致しました。

ご意見をお寄せくださり、ありがとうございます。

現在、法人の健全な管理運営体制に改善すべく、諮問委員会によるご指導のもと、取り組んでいるところであります。新体制において人事の見直しがなされました際には適切に対応いたします。ご理解のほど、よろしくお願い申し上げます。